

道 南

申年の雑感

北海道道南会会長 薬袋 泰



新年明けまして

皆様お変わりなく元気に、新しい酉年の新春をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は熊本・大分・福島・鳥取他での大きな地震被害、台風、集中豪雨、等々で各地で度重なる災害に見舞われました。特に北海道では数度の集中豪雨で、ジャガイモ、玉ねぎ、にんじん等農作物に大きな被害、河川の氾濫、土砂崩れによる大きな災害により、まだまだ復旧の目途も立たず厳寒の冬期間に入り、一日も早い復旧を願うばかりです。道南地方も台風により、りんごの被害が大きいと聞き憂慮しているところですが、また、政治経済の厳しい年でも

あったと思います。アメリカではトランプ次期大統領が決定し大きく変わろうとしており、日本でもその対応が重く大きな課題となっております。

一方、夏のリオオリンピック・パラリンピックでは、日本選手の活躍が毎日報道され、メダル獲得数は前回のロンドンオリンピックを大きく上回る結果でした。特に、パラリンピックでは、辻沙絵さんが（七飯町生れ、函館鍛神小、本通中）陸上競技 400m で銅メダルを獲得し、11月には七飯町より七飯町民栄賞第1号を受賞されました。函館生まれの池崎大輔さんは、ウイグルチームメンバーとして活躍し、銅メダルを獲得しました。大きな困難を乗り越えての活躍に大きな声援を送り、益々の活躍に期待したいと思います。また、プロ野球では北海道日本ハムファイターズ（七飯出身、鍵谷陽平投手在籍）が10年振りに日本一となり、更にはサッカーのコンサドーレ

札幌が来季のJ1昇格が決定する等、スポーツ会で北海道勢の活躍が目立った年でもありました。

3月26日に期待されて開業した北海道新幹線により、道南地域は活況を呈し、その経済効果は計り知れないものがあります。道南会でも新幹線を利用した「ふるさと旅行」を計画していましたが、各ふるさと会、同窓会等が独自に計画している事、時期・費用の問題等々が有り断念することとなりましたが、いずれの機会に必ずや実行したいと考えております。

昨年は、道南会の運営に長い間多大なるご尽力をいただいた三名の方がご逝去されました。川守田孝平相談役につきましては、「夏季号」でお知らせ致しましたが、11月1日に二上達也顧問が、11月5日に能味俊哉顧問がご逝去されました。誠に残念でなりません。謹んでご冥福をお祈りいたします。特に、能味顧問は、高校の同窓会（東京函商同窓会）の時から40年、特に、記憶に残っているのは、会報の編集を一から手ほどきを受け、編集、寄稿など数え切れないほどの思い出があり、心配して家に何度も電話を貰ったこ

とを、昨日のように思い出されます。現在地域の高齢者クラブの長として、クラブの記念誌発行に際しては、ご指導を頂いたことを思い出しながら役立たせております。

“五稜星の夢” 実行委員会が毎年行っている『特別史跡・五稜郭跡』イルミネーションイベントに今冬も広告協賛致します。点灯期間は2月28日（火）迄です。

道南会の総会・懇親会は2月4日（土）ホテル・ラングウッドで開催されます。多くの会員の皆様のご出席をお待ちしております。ホームページを駆使して、道南会を積極的にPRし、役員一丸となって多くの会員の出席を図って参ります。ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。



函館駅前広場イルミネーション

函館市便り

函館市長 工藤 壽樹



新年あけましておめでとう
ございます。

平成29年の新春を皆様とともにつつがなく迎え、お祝い
できますことを喜び申し上げます。

北海道道南会の皆様におかれましては、日頃から、函館
市政伸展に特段のご支援・ご
尽力を賜り、厚く御礼申し上げ
ます。

貴会におかれましては、昭和
35年の創立以来、半世紀を
超える長きにわたり、「ふる
さと道南」を心の絆として会
員相互の交流と親睦を深め、
固い結束のもと、幅広い分野
において活発な活動と郷土発
展への貢献を続けられ、今日
のご隆盛を築かれておりま

すことは、薬袋会長をはじめ
歴代会長、役員、会員の皆様
の一方ならぬご努力の賜と存
じ、心から敬意を表します。

さて、昨年を振り返ります
と、まずは北海道新幹線の開
業という記念すべき年であつ
たことが挙げられます。この
「第二の開港」により、東京・
新函館北斗間は最短で4時間
2分で結ばれました。当市で
は開業を見据え国内外でプロ
モーション活動が続けてきた
こともあり、平成28年度上期
の来函観光客入込数は前年同
期より45万人増の366万人
に上りました。

特に5月は桜前線とゴール
デンウィークが重なったこと
から、市内は大変な活況を呈
し、特に五稜郭公園の桜は「こ
の春行きたい！国内の春の絶
景ランキング」で1位となり
ました。

また、6月には函館初のフ
ルマラソンが、全国47都道府
県すべてのエリアよりご参加
をいただいていたの開催となり、
関係各位のご協力のもと、無



五稜星の夢

事に実施することができまし
た。同時開催のハーフマラソ
ンを含め過去最多となる7、
000人近いランナーが、函
館山のふもとの西部地区や津
軽海峡沿いの観光スポットを
走り抜け、エイドステーション
では函館ならではのおもて
なしとしてミニ海鮮丼などが
提供されたところです。

7月には「青森県・函館デ
スティネーションキャンペーン」
に合わせ、函館駅前に「は
こだてグルメガーデン」を
オープンし、「美食の街・函館」
をイメージした屋外レストラ
ンと道内5地域のグルメ・物
産が週替わりで登場する「北



港まつり

海道うまいもんサミット」を
2カ月にわたり展開したほ
か、市内飲食店では道南食材
を用いたメニューを提供する
「函館まちごちフェア」を開
催いたしました。

そして、8月は「港まつ
り」です。「わっしょい函館」
に東京デイズニーシー15周年
スペシャルパレードとして、
ミッキーマウスをはじめとす
る仲間達が参加し、大変な盛
り上がりとなりました。青函
ツインシティまつり交流事業
では、過去最高の市民150
人が参加した、大迫力のいか
踊りを青森市で披露いたしま
した。



グルメサーカス (八戸三社大祭)

9月には、函館最大級の食
のイベント「はこだてグルメ
サーカス2016」を新幹線
開業記念として開催いたしま
した、青森ねぶた祭、弘前ね
ぶた祭、八戸三社大祭、盛岡
さんさ踊り、秋田竿燈まつ
り、仙台七夕まつり、仙台
すずめ踊り、山形花笠まつ
り、そして福島わらじまつ
り。これら東北六県のお祭り
を一度に見ることができると
あって、これまでで最大の
27万1,000人のご来場を
いただき、大盛況のうち終了
することができました。

12月の「はこだて冬フェス
ティバル」では、恒例とな



グルメサーカス (仙台)



グルメサーカス (秋田)



クリスマスファンタジー

りました姉妹都市のカナダのハリファックス市から贈られたモミの木が、ベイエリアに巨大なクリスマスツリーとして輝く。「はこだてクリスマスファンタジー」や歴史的な建物が建ち並ぶ元町地区を彩る「はこだてイルミネーション」を開催いたしました。

また、函館駅前では函館山をイメージした道南杉によるフレームと、いさり火のような美しい灯りが観光客をお出迎える「函館駅前広場イルミネーション」を実施しております。

北海道新幹線の開業は到達点ではなく、新時代を築いていくための出発点であります。これからは新しい時代に合った新たな魅力を付加し、函館のまちを進化させていくことが必要であると考えます。その取り組みの一つ目は「ガーデンシティ函館」構想です。函館市内には数多くの魅力的な観光スポットが点在しています。これらを点で繋いで線にし、さらには面にする。そしてまち全体を公園のような、あるいはまちそのものをテーマパークにする、それがこの構想です。たとえば西部地区では30年以上かけて歴史と景観に配慮したデザイン性の高い都市空間を形成してきました。こうしたことを長期的視点でまち全体に広げ、「歩いて楽しいまち」「何

度も訪れたくなる楽しいまち」を築いていきます。二つ目は「食の産業化」です。ご存知の通り、函館を含む道南地域は海産物を中心にすばらしい食資源に恵まれておりますことから、これらを生かし、グルメのまち、美食のまちを目指す取り組みを進めております。今年2月には函館アリーナでキックオフイベントとなる「はこだて美食フェスタ」を初開催する予定です。



イルミネーション (八幡坂)

Copyright (c) City of Hakodate.
Hakodate Yunokawa Onsen Hotel Association.
Hakodate International Tourist and Convention Association.

福島町の魅力の発信と 今年の「まちづくり」の方向性

福島町長 鳴海 清春



の熱い思いを絆とし、それぞれの地域において幅広い分野で活発な活動を展開され、ふる里の発展に多大なご尽力と貢献をいただいていることに、改めて深く敬意を表します。

福島町の最近の動き

福島町は、道産子初の横綱「第41代横綱千代の山」と、角界初の国民栄誉賞に輝いた小さな大横綱「第58代横綱千代の富士(九重親方)」の2人の偉大な横綱を輩出しており、一つのまちで2人の横綱が誕生しているのは全国でも福島町だけであり、わが町の誇りとするところであります。

新年あけましておめでとうございませう。
北海道新幹線が開業し、道南にとつて新たな時代の幕開けを迎え、さらなる飛躍と希望に満ちた、平成29年の新春を皆様と共につつがなく迎え、お祝いできますことを心からお慶び申し上げます。
北海道道南会の皆様におかれましては、葉袋会長の下、日頃から郷土の振興及び発展のため、多大なるご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

北海道道南会におかれましては、創立55周年の記念の年を終え、新たな旅立ちの年を迎えるに当たり、これまで半世紀を越える長きにわたり、ふるさとへ



横綱記念館銅像

北の湖、千代の富士と北海道が誇る名横綱を相次いで失くしてしまいました。

10月1日には、東京の両国国技館で「九重親方のお別れ会」が開催され、全国から5千人を超える方々が献花に訪れてくれました。また、当町でも11月3日に町等の主催による第58代横綱千代の富士貢殿「お別れの会」を開催いたしました。町内外から多くの方々にご参列をいただき、改めて横綱千代の富士が多くを相撲ファンに愛された偉大な横綱であったと実感いたしました。



横綱記念館外観

九重親方とは、幼いころから遊んだ中であり、同級生として、友人として、ふる里の宝、財産を失くした思いで、非常に残念でなりません。これまでご声援頂きました多くの皆様に感謝とお礼を申し上げます。

さて、福島町が取り組んでいる施策等をお知らせしたいと思います。

私は、平成27年10月に就任以来、元気で笑顔のあふれる福島町を実現するため、思いやりのある行政に心がけております。

平成28年4月からまちづく

りは、人づくりであるという理念の下、「福島町人財育成基金条例」を制定し、あらゆる分野の担い手のスキルアップに活用いただくとともに、福島商業高等学校の魅力づくりを進めることで、「まち」から高校を失くしてはいけないという強い思いの中で高校存続対策を講じております。また、「福島町がなんかに負けない基本条例」を制定し、現代病ともいえるがん検診の無料化をすることで検診率の向上を図り、医療費負担の軽減を目指しております。さらに、過疎化が進む中で空き家が社会問題化しており、台風などによるトタンの飛散や冬の屋根から落ちる雪が周辺住民の安全を脅かしていることから「福島町空き家等の適正管理に関する条例」を制定し、自主的に解体する方々に60万円を限度に補助をし、大変好評をいただいております。平成28年度はすでに15件の解体が完了しております。なお、解体後の空き地については、地域の雪捨て場などにご協力をいただくこととしております。

人口減少が地域の一歩の課題であり、人口減少を如何に

(5)

緩やかにするかが求められており、子供は地域の宝であり、地域全体で子育てを支援する観点から高校生までの医療費の無料化をはじめ保育料を無料化、給食費も無料化しております。

産業を軸に地域経済の循環をめぐして

当町は、豊かな津軽海峡の恵みをいただいでイカ漁やスルメ加工業等の産業を基盤に栄えてきた町であり、浜からの生産力を高め地域経済を循環させることで地域力の向上を図り、若者等の雇用の確保につながるものと確信しており、結果として人口減少に歯止めをかける方策につながると思います。

地域の水産業を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。現在、浜の活力再生広域プランを策定し、水産物鮮度保持施設（製氷冷蔵施設）を新設中で低温管理の徹底による高品質化・高鮮度化による地元水産物のブランド化を推進しております。

また、当町の主力産業となっている養殖コンブにおいては、漁協及び町が民間企業と連携し、これまで海に捨てられていた未利用の間引き昆布を活用

し、「食べる昆布」の開発に取り組む、今年の春から試験事業を開始し、近い将来全国のコンブで福島産の食べる昆布が買えるよう頑張っております。

さらに、蝦夷アワビの陸上養殖を本格的に試験事業として開発し、アワビを低価格で食べられるような商品開発として包括連携協定を結んでいる北大や東京農業大学と行っております。また、新たな取り組みとして漁港の静穏域を活用し、ウニの養殖試験事業を実施することとしております。

浜の活力・元気を取り戻すことが抜本的な少子化対策の近道であり、浜の生産力を高め地域

の経済を循環させて、地域経済力を高めることが町の維持・発展につながるものと確信をしております。

一方、北海道新幹線の開業により道南を訪れる観光客や外国人が多くなり、東北や関東との距離が短くなりこれまで以上に道南の経済圏が広がっております。当町には、青函トンネル工事基地を担ってきたという歴史と、日本の伝統文化である相撲のモニュメントがあります。

昨年、町民と行政の協働のまちづくりを進めるツールとなる「一般社団法人福島町まちづくり工房」が設立され、これまで眠っていた地域資源を活用し交

流人口の増加に努めることとしております。特に松前矢越道立自然公園内にある「青の洞窟」の観光開発を本格的に手掛けることとしております。

千軒岳とキリシタン殉教地、千軒そば、殿様街道、女だけの相撲大会など魅力あふれる福島町を広く発信してまいります。

むすび

日本全体の人口がこれまで経験したことのない、2005年をピークに減少に転じる中で、福島町においても少子高齢化が急激に進んでおり、一地域で解決できるものではないと感じております。

先人たちが幾多の困難を克服し、繋いできたバトンを絶やすことなく、これから生まれてくる子供たちへ輝ける未来を切り開く覚悟を以って、思いやりのあるまちづくりに邁進する所存であります。引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様におかれましては、道南へ帰京された際は、是非、横綱の里・福島町へ足を運んでいただき、本町の魅力を堪能していただければ幸いです。最後になりますが、北海道南会のごさらなるご隆盛と会の皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。



青函トンネル記念館



夜の青函トンネル記念館



はこだて人物誌^⑬ 松浦武四郎

道南会会員 沢株 正始

幸小学校出身

私が生れたのは函館西部地区の弁天町、以前は大黒町と呼ばれたところ。市電通りと鍛冶町（当時の名称）バス通りに挟まれ、現在の電停函館ドック前から大町まで続く坂下の町です。二つの停留所の間は歩いて10分余の距離で、それほど広い町並みではありません。

戦前から小さな繁華街で、廉売や映画館があり、結構賑わった商店街だったようで、戦後、私の幼時もまだその余韻はありました。

町の並びは大黒町通りというメインストリートが中心でしたが、その通りと坂の上のバス通りの間に「かべあな通り」と呼ばれるやや細い通りが、ドック前から幸小学校の下あたりにまで走っていました。通りの両脇にはやはり大それたの家が立ち並び、民家だけでなく、駄菓子屋、米屋、染物屋、洋服屋、質屋、



松浦武四郎氏

内科医院、柔道師範骨接ぎ、小さな鉄工場などもあつて生活感にあふれており、さらに「小路」がところどころにあつて、その両側にも小さな家が密集していたという記憶がいまでも残っています。

小学校の頃はほとんど意識はなかったのですが、「かべあな」というやや変わった名前がなぜついているのか、という疑問を高校生のころから持つていました。しかし、その後、受験などに追われるうちにほとんど忘れていたのですが、東京の出版社に勤めるとき、縁があつて『函館市史』の宣伝の手伝いをするに成り、読みだしているうちにその名に出つくわし、以前の疑問が忽然と湧いてきました。仕事の合間をぬって社の図書室で資料探しをして、たま

り立つことができても、玄関口であることには変わりありません。しかしこの言葉が最もふさわしいのはやはり、青函連絡船が海峡を通過して青森と函館をつないでいた頃まで、素通り玄関は落語にはあつても、実感はやや変わったような思われます。

ところでこの「北海道」という名称は誰がつけたのか。ゆかりのある旅人や、探検家としては間宮林蔵とか近藤重蔵、伊能忠敬などの有名人が浮かびます。しかし、彼らを差し置いて明治政府から命名を依頼された人物がこれから触れる松浦武四郎なのです。並みいる人物のなかで、なぜ武四郎が指名されたのでしょうか。

松浦武四郎は文化15年（1818）、伊勢国須川村（今の三重県松阪市）の郷士の家に四男として生まれました。松浦氏は、四天王の鬼退治で有名な源氏の渡辺綱にさかのぼるとされる九州水軍・松浦党の系譜をひく一族で、中世のころ伊勢にわたったといわれています。

若い頃に本草学（薬学）を学んだり、僧籍に入ったりし



根室岬の松浦武四郎像

ますが、親兄弟がみな亡くなつて天涯孤独となつたのをきつかけに、弘化元年（1844）完全に還俗して蝦夷地探検に出ました。

もともと諸国をめぐる旅が好きだったようです。彼の生家は上述したように伊勢神宮の近くにあつたため、お伊勢参りの旅人を見るのが多かったのも刺激となつていたのでしょう。その行動範囲の広さはまた格別で、明治21年に亡くなるまでのほぼ70年間に日本全国をめぐるりますが、



根室市観光協会のポスター

圧倒的に蝦夷地方面に比重がありました。北海道方面を歩いたのは6回、踏査の旅は択捉(エトロフ)、樺太(カラフト)にまで及んでいます。冒頭に書いた「北海道」命名のことに触れましょう。安政2年(1855)に蝦夷御用御雇という職に抜擢され蝦夷地を再踏査して『東西蝦夷山川地理取調図』を出版したあと、明治2年に開拓判官、開拓大典となったとき、従来からの「蝦夷地」にかわる新しい呼称を考えるよう政府から要請されます。その時、待つてましたとばかり提出した6つの案の中から「北加伊道」が採用され、それをもとに要人の協議のすえ「北海道」と決定されたといういきさつがあります。したがってこの年の9月がこの名称の出発と

いうわけです。

しかし、和人たちによるアイヌの収奪の実情などを知り、政府に何度も諫言したにもかかわらず聞き入れられなかったことに不満をいだき、開拓使の役人を辞職します。

多才な人だったようで、官職を退いたあと彼は著述活動に専念するかたわら全国遊歴を続けますが、平安時代の公家学者・菅原道真にとくに熱い思いを寄せ、道真を祀る全国の天神社をまわり、鏡を奉納したことも伝えられています。また骨董品や内外の古物を収集したり錦絵にまで手を広げつつ自由な余生を愉しんだようです。明治21年東京の神田五軒町の自宅で脳溢血を発して亡くなり、西ヶ原の染井霊園に埋葬されました。ちなみに故郷の松阪市には



右側がかべあな通り

ので不正確ですが、短い坂を上りきるまで大人の足で1分もかからないし、坂に並ぶ家は4、5軒程度の短い坂

「松浦武四郎記念館」が建てられ、彼の遺品や諸資料が保管されています。また、上記自宅の片隅につくられた一畳敷きの彼の書齋が現在、東京・三鷹の国際基督教大学敷地内にある山田敬亮(実業家)の別荘の中に移築されています。この書齋は武四郎が全国の社寺から古材を譲りうけて組み上げたもので、没後は解体して焼くようにと遺言していたようですが、何回かの移築のすえ今の地に保存されました。

肝心の「壁穴」です。

この妙な名前に好奇心を持ったとき当然ながらすぐに、地質・地形がかかわっているのではないかと思いました。すぐ上のバス通りとの高低差はおそらく10メートル足らず、ちゃんと計ったわけではないので不正確ですが、短い坂を上りきるまで大人の足で1分もかからないし、坂に並ぶ家は4、5軒程度の短い坂

です。そしてとことろどころ小路から覗ける崖の隙間から感じられるやや特殊な色の土。函館山独特の地質に関係があるのだろうとは思っていません。さて、この『蝦夷日誌』を頭からめくって見て、巻の三の中ほどで「壁穴」の文字にめぐり合ったときは正直驚き、同時に武四郎の行動や記録の重みを再認識しました。高龍寺や弁天町、弁天社、神明町と続くあとに鱈淵(たなごま)町、山せ泊り町と続き、そのあとに「壁穴」という名前がほかの町名と同格に扱われて出てきました。「この上を云うなり。ここは土赤土にて壁に用いるにはなはだよろしき故にすなわち号るなり(トナエルと呼んだか)。市中壁穴を皆なここにとりに来るなり。今はそこを塵芥捨場としたり。また市中の木蔵を多く建てたり」(表記を少々整理しました)。

そのあとがゴミ捨て場になったのは少々残念な気もしますが、市内の建築に重宝された所だと思えば、いささか満足です。このあと山の上町、愛宕山、天神町、穴淵、サブカワ、立マチ、谷地頭など続き、それぞれ当時の状況を興味深く書いていますが、いずれ機会があればご紹介してみたいと思います。ちなみにこの「壁穴」探求は、函館関連の公文書や地図などを調べれば、案外簡単にわかったことかもしれません。かねてから関心を持っていた松浦武四郎に関連づけて探つてみたいという思いがこのような形での紹介になりました。私の酔狂にお付き合いました。私たことを感謝申し上げます。

〔参考資料〕

- ・『三航蝦夷日誌』上下、吉田武三校注、吉川弘文館、1970〜1971年
- ・『松浦武四郎紀行集』上中下、吉田武三編、富山房、1975〜1977年
- ・『国史大辞典』第13巻、吉川弘文館、1992年
- ・ウィキペディア〈松浦武四郎〉

能味さんを偲ぶ

北海道道南会相談役

田沼 修一

能味寿哉さんに初めてお目にかかったのは昭和56年頃であった。能味さんは室谷邦雄さんとお二人で「道南会」入会のお勧めに見えたのであった。しかし、忙しいNHKの仕事に追われて余裕はなく、両先輩にお断りせざるを得なかった。2年後に仕事が変わり余裕ができたのを機会に入会させていただいた。

そもそも戦前に函館出身で東京で活躍されていた方々が集まって「函館会」を作っておられたが、戦争で中断していたのを、戦後に経済団体の世話役をされていた山下清一さんが復活に努められ、日本銀行出身の室谷、能味両氏が手



能味寿哉氏

助けをして「道南会」拡大したのであった。リーダーを山下さんから室谷さんに受け継がれ、それを能味さんが助け、さらに私と昨年5月に亡くなった川守田さんが中核となつて「道南会」は次第に拡大してきたのであった。

会の活動状況や会員相互の理解を深めるための「機関誌・道南」の編集は能味さんが担当され、経済に明るい能味さんの文筆は会員に役立った。また戦前に「玉小学校」「函館商業」を卒業されていた能味さんは、同窓会のつながりを大切に会員を増やし、このことは他の弥生、青柳、東川、柏野などの同窓会や函館商業の後輩を道南会に招くきっかけを作ってくれた。

若い会員が増え、山下さん時代の会員が少なくなり、新年会や夏季懇親会も東京駅前の日本工業倶楽部から日比谷のプレスセンターに移り、次第に様変わりしていった。能味さんは副会長として会員の親睦に努め、会の後有志で二次会に流れたが、能味さんはお酒を愛し、話題の豊富な楽しい佳い愛酒家であった。特に年輩の女性会員に人

気があり、楽しく杯を乾しておられた。能味さんは日本酒派。私はウイスキー派と酒の趣味は違つても話題の尽きることはなかった。酒を愛し、人との付き合いに心を配られる方であった。

ここ数年、能味さんは会合に出られることも少なくなり、淋しい思いをしたが、高齢とともに体調を崩され、遂に亡くなられたとのこと。やや後輩の私にとつても淋しい限りであり、ご冥福を祈るばかりである。



二上達也さん 逝く

北海道道南会

小林 嘉則

二上さんが亡くなったことは、11月4日に東京からの電話で知った。茨城県の牛久の施設で1日に亡くなつていたそうで、しばらく様子を聞いていなかったとは言え、全国的に知られた方だけに新聞に載つていないのはおかしいなと思つていたら、沖繩では翌日5日の琉球新報に計報が載つた。

函館の

天才と呼びし人逝きて

駒に賭けたり

二上達也

将棋界では、大山名人や升田幸三の全盛時代に、若手のチャレンジャーとして名を馳せた方であり、将棋連盟の会長職を長年にわたり務めていたので、将棋を少しでも差した経験がある人には全国の著名人である。

沖繩に来て2年半、人の集いで自己紹介をする時には、函館の出身で高校の先輩には、将棋で知られた二上達也さんがお

りますと言ふことにしていた。とは言え私が先輩として慕つていただけで、沖繩では知られていない面もあるが、函館が生んだ天才将棋士ですと言ふと皆さん興味を示してくれる。

二上先輩と初めてお会いしたのは、いつ頃になるのだろうか。高校の白楊ヶ丘同窓会で活動されていた三國比左男先輩から声をかけて頂き、同窓会の手伝いをするようになり、その時から東京支部の支部長に二上さんがなられた。

平成4年・1992年9月発行の東京白楊だよりに「うつかりと言ふか、そそっかしいと言つたらいいか、つい東京支部長の大役を引き受けてしまつたのだが、」という一文が支部長挨拶として載っている。

この出だしの文章でも分かるように、堅苦しい形式的



カラオケに興じる二上先輩

なことは一切言わない人柄が、場を柔らかくして、和やかにさせてくれる。ジツと座って周りの人の話を聴いている時には、とても真剣な眼差しをしてるので、顔つきに見えるが、一転ご自分が話される時には、照れるようにちよつと笑いながら軽口から話し始めるので、聴いてる側もリラクセスさせられる。人によつては立場的な威厳と言うか、型通りな話し方をされる方が多い中で、やはり高みにおられる方の余裕のように感じられる。

将棋の世界は、我々には分からない勝負師の生き方があると思うが、二上さんの扇子に書かれる文章に「鬼手 仏心」と言う言葉がある。二上さんの心根を感じる名文と思っているが、他にも書かれた扇子を何本か頂いた。

この二上さんの扇子は、同窓会のゴルフコンペの優勝者に景品の一つとして渡されていたものですが、とても皆さんが欲しがった優勝者の特別な副賞でした。

ゴルフ大好きの二上さんから、同窓会でもゴルフ会を企画しませんかと提案され、1

年の準備をして始めたポプラ会は、同窓会の活性化に大なる役割りを果たし、二上さんの自筆の扇子争奪戦で盛り上がった。

目を細め
ゴルフ愉しむ勝負師も
時に無となる
鬼手仏心

その後、他校との同窓会が交流をするようになり、お互いの総会の会場に伺う機会が出来た。東高青雲同窓会の中村隆俊氏、西校つじヶ丘同窓会の新谷義克氏、そして白楊ヶ丘同窓会の二上達也氏を中心に、故郷函館を代表する三者の牽引力は目をみはる活躍振りになった。これも二上さんの人を惹きつける魅力が一役買っているに違いない。

この三校の交流は、巴会と言



白楊ヶ丘同窓会立役者
二上、福津両先輩

うゴルフ会を開催するキツカケになり、後には道南会にゴルフ会が産まれることにも繋がった。

道南会の顧問をされていた二上さん、会計監査をされていた瀬田松さん(故人)、道南会の立ち上げに尽力された福津さん(故人)、この3人は函中同窓会の中心的な役割を果たした52期生でもあるが、函館のふるさと会も支えていた。臥牛の山に光り輝いた星がまた一つ消えた。遠く南の島からご冥福を祈りたいと思います。

先達の
跡を追いたり我が道に
遺し言葉の
重みかみしむ



二上達也さんと瀬田松吉昭さん

顧問・相談役会

北海道道南会の顧問・相談役会が11月25日午前11時30分より、東京・銀座の「梅の花」で、松田昇・新谷義克・朝倉敏夫・南谷光一顧問と葉袋泰会長、島田瑞子・三村寿雄副会長など12人が出席して行われた。

椅子を配置して移動して相互交流を計れるようにすべき。最近新入会員が増えているのは嬉しいが、2回、3回と重ねて出ていたかどうかのようにしたい。ここ数年ゴルフコンペが行われていないが復活を。また、開通した北海道新幹線を利用してのふるさと訪問旅行を企画して欲しい、などの意見が出されていた。

会では、最初に最近相次いで亡くなられた川守田孝平相談役、二上達也・能味寿哉顧問の冥福をお祈りして黙持した。次いで、葉袋会長が平成28年度事業の概要を報告。この後、ご参加の皆さんからご意見を述べていただいた。



新年総会を毎年同一会場で行っているのは大変良い。顧問と常任幹事の人数を増やすべき。総会と夏季懇親会時の各テーブルに予備

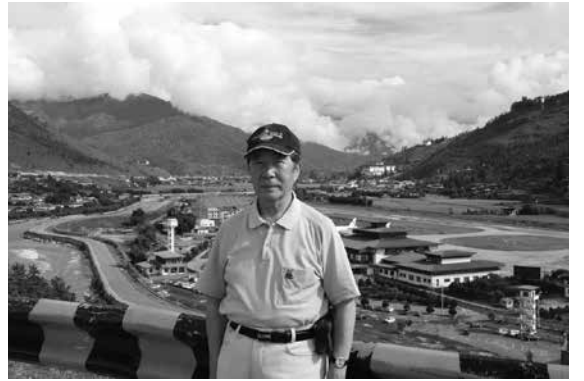
「ブータン」幸福という
言葉のない豊かな国

小山 光

今年の8月末に、早稲田オープンカレッジで「原始仏教」関係講座を受講している仲間24名と「チベット仏教」史跡見学のために、ブータンを3日間訪れる機会に恵まれた。

ブータンは、人口70万人、国土は九州ほどの広さで、人口密度も18人/㎢と北海道の69人/㎢の30%ほどしかない山間の小国である。GDPは世界158位であり国民名目1人あたりGDPも、28万円と日本の398万円の7%にしか過ぎない。

しかし、この様な国でありながら、驚くべき事に医療費は旅行者も含めてすべて無料、学校も小学校から大学(公立)まですべて無料なのである。1976年にブータン国王による「国民幸福量は国民総生産よりも重要である」という宣言が出され、国民により「心が気持ちよい社会づくり」が進められている。「ブータン国語であるゾンカ



ガイドのムーゲンさん



語には幸福という言葉がない。強いて言えば、セムガエ(心が気持ちいい)という言葉しかない」という一節があった。私も、ツアーガイドの「ムーゲン」さんに「この国で日本語の幸福に相当する単語は何か?」と聞いてみた。彼女は、暫く腕を組んで考えていたが「相当するような言葉はないが、ガーキイという言葉が近いかもしれない。ガアとは人を愛する、キイとは自然を意味するが、日本語の幸福とはニュアンスが違うかもしれない」と何とか答えてくれた。日常の生活に満足しており、幸福とは何かという事を考える必要が無いらしい。

彼女と話していて気が付いたのは、ブータンの人々には「輪廻転生・生まれ変わり」という仏教の死生観が流れていると判ってきた。「人は死んでも49日目には生まれ変わる。従って“死”とは、恐れるに値する事ではない。現在に貧乏であっても生まれ変わった次の世では、裕福な生活を送れるかも知れないので“死”は次の世への一つのステップである」と強く信じている。輪廻転生を信ずる彼らにとつて大切なのは現在の生き方であるため、国王を初め国民は墓を作らず火葬した遺灰は大地に埋め自然に返している。また、すべての生き物は殺してはならないという仏

教の基本思想から、無用な殺生は禁止しているため、首都中心部でも野犬が横行し魚釣りも禁止、国内で消費する肉類はすべて他国で屠殺したものを輸入している。生活は、仏教の根本思想である「少欲知足」に基づいており、平山修一著「美しい国ブータン」で述べられている、下記の方程式を引用すれば、欧米流の考えでは分母の「欲望」は同じでも、分子の「財産」が増えれば、幸福度は増すと考えがちであるが、ブータンでは逆に分子の「財産」はそのままでも、分母の「欲望」を押さえる事によって幸福度は増すと考えているようである(右下)。

財産を増やそうとすれば、余計な争いに巻き込まれる事もあり、場合によっては親族同士の争いにまで発展する。しかし個人の欲望を抑える事によって他人に迷惑をかける事もなく幸せになれる。実に仏教的な発想である。

$$\text{幸福} = \frac{\text{財産}}{\text{欲望}}$$

現在の日本がおかれている状況からは考えられないが、かつて日本が「ジャパン・アズ・ナンバーワン」とも言われた時代には、日本のサラマンは月100時間を超える残業もいとわず仕事に打ち込み、企業の業績が向上することとは日本の国益に貢献し、それが我々の幸せに繋がると思いこんで働いてきた。我々が帰国する前日、ムーゲンさんは言った。「以前、



研修で大阪に1カ月ほど住んだ事があった。日本は景色も綺麗だし物が豊富で街の人はみな親切で楽しかった。しかし永住したいとは思わなかった」と言って、大阪で覚えたという炭坑節を「月が出た出た」と手ぶり宜しく歌ってくれた。彼女の母親は民謡歌手だったそうで、母親が吹き込んだ民謡8曲入りのCDをお土産に貰った。

戸田中央医科グループ
中村隆俊会長が「戸田市名誉市民」第1号を受賞いたしました!
Honorary citizen of Toda City

戸田中央医科グループの中村隆俊会長が、長年にわたり戸田市民から厚い信頼を得て、戸田市の医療・福祉・保健分野に多大なる貢献を果たすとともに、様々な分野において戸田市の発展に尽力された功績により、このたび戸田市名誉市民第1号として顕彰されました。



戸田中央医科グループの中村隆俊会長は、長年にわたり戸田市民から厚い信頼を得て、戸田市の医療・福祉・保健分野に多大なる貢献を果たすとともに、様々な分野において戸田市の発展に尽力された功績により、このたび戸田市名誉市民第1号として顕彰されました。

道南会顧問で、戸田中央医科グループの中村隆俊会長が、長年にわたり戸田市民から厚い信頼を得て、戸田市の医療・福祉・保健分野に多大な貢献を果たすとともに、様々な分野において戸田市の発展に尽力された功績により、戸田市名誉市民第1号として顕彰されました。



中村 隆俊さん

中村隆俊顧問が戸田市名誉市民第1号として顕彰される

25日に、北海道瀬棚郡瀬棚町（現・久遠群せたな町）で生まれ、昭和25年、北海道大学医学科を卒業後に上京。東京医科大学インターンを経て入局。昭和37年8月に戸田中央病院（現・戸田中央総合病院）を開設し院長に就任。現在、戸田中央医科グループの会長として1都4県下に28の病院と6つの老人保健施設の他、特別養護老人ホーム、クリニック、健診センター、訪問看護ステーションなど、合計114カ所の関連事業所を展開されている。平成12年、勲四等旭日小受賞綬章受賞。

を目的として平成27年10月に戸田名誉市民条例が施行された。



森本 貞子さん

森本貞子さんが 神山茂賞を受賞

道南の郷土史研究などで優れた業績を残した個人・団体に贈られる平成28年度の「神山茂賞」を、道南会会員でノンフィクション作家の森本貞子さんが受賞されました。「神山茂賞」は、一般社団法人函館文化会（金山正智会長）が、郷土文化高揚のために行っている郷土史研究者奨励事業の一つとして平成元年に創設され、函館市及び近



郊の郷土史についての優れた研究、発掘、収集、出版などに事跡を残した個人・団体に贈られています。森本さんは、代表作に明治期の英国人地震学者ジョン・ミルンの妻で函館出身の堀川トネの半生を描いた「女の海溝 トネ・ミルンの青春」や、島崎藤村の最初の妻で函館出身の秦冬子を主役にした「冬の家 島崎藤村夫人冬子」などがあります。函館文化会は「森本さんは、膨大な調査と資料収集によって国際的な港町・函館の姿を描いている」と評価し、贈呈理由として「贈呈式は11月7日に末広町の五島軒本店で行われました。神山茂賞は、函館市の郷土史研究者、故神山茂さんを記念して創設されました。」

ふるさと会だより

「東京北斗会」総会・懇親会

道南会会長
葉袋 泰

「第22回東京北斗会定期総会・懇親会」は平成28年10月22日(土)アルカディア市ヶ谷で午後1時より来賓・会員及び関係者75名が出席して盛大に開催されました。

総会は佐藤金也会長より新幹線を利用してのふるさと訪問旅行、会報をこれ迄の5年毎の発行を毎年発行するなどの挨拶の後、27年度活動報告並びに決算報告があり、審議が行われ、新任3名を含めて役員紹介の後、米田事務局長の閉会の言葉で総会が終了。

懇親会は、宮崎事務局員の開会の言葉に続き、司会者より来賓の方々が紹介され、代



佐藤金也会長



高谷寿峰市長

表として高谷寿峰市長は、大野町と合併して10年の式典を挙行、3月の北海道新幹線の開業により観光客も増加し更なる町の活性化に取り組んで行く。米、野菜等の農作物は平年並みで順調であるが、サケ漁が不漁で心配をしている等、北斗市の現況を報告された。

続いて、北海道ふるさと連合会高橋照美会長のご発声で乾杯、祝宴に移った。

新入会員1名が紹介され、各テーブルではそれぞれ故郷の話などで盛り上がり、舞台では余興、アトラクション、カラオケ等々で会場は更に賑々しくなる中、お待ちかねのお楽しみ抽選会に移った。郷土の色々な特産品などが当たり、会場は些か興奮気味で大騒ぎ。楽しいうちに閉会の時間となり、お米や特産品のお土産を手に、またの再会を楽しみに散会した。

同窓会の活動状況

◆函館工業高校同窓会

10月8日(土)

ホテルラングウッド

参加者 91人

◆幸小学校同窓会

10月22日(土)

銀座アスタールベルシーヌ

竹芝店

参加者 14人

◆白楊ヶ丘同窓会東京支部

第40回親睦大会

(函館市中部高校同窓会)

10月22日(土)

グランドアーク半蔵門

参加者 137人

◆常盤小学校同窓会

11月5日(土)

東海大学校友会

参加者 9人

◆東京千代岱第9回総会

(函館市立千代岱小学校同窓会)

11月26日(土)

古寿茂・兜町店

参加者 10人

◆遺愛女子高校同窓会

12月2日(金)

アイビーホール青学会館

参加者167人

あけましておめでとうございます

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-------|-----|-----|-----|----|----|----|
| 山田 | 南谷 | 松田 | 福崎 | 濱 | 沼崎 | 納代 | 中村 | 鳥本 | 続 | 高橋 | 菅原 | 島田 | 沢株 | 酒井 | 小林智恵子 | 小島 | 川瀬 | 金子 | 小山 | 今井 | 朝倉 |
| 克明 | 光一 | 州平 | 正春 | 光徳 | 貞良 | 鉄也 | 隆俊 | 玲子 | 好子 | 順吉 | 大作 | 瑞子 | 尚子 | 哲美 | 恵子 | 幸子 | 俊吉 | 公彦 | 光 | 雅子 | 敏夫 |
| 山田 | 三村 | 松田 | 福地 | 比嘉 | 沼崎 | 榎木 | 中山 | 土井 | 富岡 | 田沼 | 須藤 | 新谷 | 沢株 | 佐々木 | 小山 | 小助川 | 川守田 | 金子忠 | 笠川 | 岩倉 | 石戸 |
| トミ子 | 寿雄 | 昇 | 史人 | 裕子 | 茂子 | 久澄 | 泰誇 | 眞一 | 信夫 | 修二 | 珠実 | 義克 | 正始 | 木静子 | 和彦 | 昭一 | 礼子 | 雄 | 雅彦 | 弘晃 | 六男 |
| 山本 | 森本 | 葉袋 | 古井 | 檜森 | 根来美 | 新山 | 長島 | 中村 | 豊田 | 続 | 高橋 | 末永 | 澤出 | 佐々木 | 郷内 | 小谷 | 神山 | 佳山 | 金谷 | 大畑 | 泉 |
| 久子 | 貞子 | 泰 | 勝春 | 兄元 | 和子 | 春一 | 康 | 崇 | 利雄 | 薫 | 厚子 | 昌子 | 重雄 | 俊克 | 繁 | 泰三 | 茂郎 | 明生 | 博治 | 徹夫 | 龍夫 |

道下 佳拓
 昭和29年奥尻生まれ。奥尻中学校から函館商業高校貿易科に入学。下宿しながら1学年は伝統ある五稜郭校舎、2、3学年は新しい頁の昭和校舎。多感な時期の3カ年は本町・松風町・大門・湯ノ川などで愉快に過ごした。卒業後は上京し、輸出入関連職務に就く。ある時、同級生に誘われて同窓会へ参加したことが今日まで続いている。本年7月より85年の歴史ある「東京函商同窓会」の会長に推薦され第一歩を踏み出した。「先達に感謝し後進に絆を！」をテーマに取り組んでいる。



道下 佳拓
 昭和29年奥尻生まれ。奥尻中学校から函館商業

北海道道南会 会員プロフィール

新入会員の皆さまにプロフィールをご執筆いただきました。ご紹介します。

(五十音順に掲載)



大熊 泰子
 私は、昭和19年に七飯町で生まれ、函館の高校

を卒業し、千葉県の小湊鉄道に就職しました。上京の時は青函連絡船で青森に渡りましたが、今年の春に新幹線が開通しました。
 新幹線の工事中は函館から大野駅まで車で基地を見に行きました。故郷がぐっと近づいて嬉しかったです。今は、週5、6日の割で卓球に打ち込んでいます。9年前にも膜下出血で生死を体験したからです。生かされている毎日に感謝して過ごしています。一期一会に感謝。



三橋 智行
 昭和46年函館生まれ。深堀中学校、

木古内高校、函館大学を卒業後、函館を離れ、首都圏で医療機関に従事し、現在は医療コンサルタントをしています。函館で過ごした日々も遠いものとなりつつありますが、道南会に参加することにより、故郷や青春時代の懐かしい思い出に浸れることを楽しみにしております。函館が活気に溢れ、いつまでも自慢の故郷であって欲しいものです。



岡本 信三
 昭和24年3月、函館市鶴岡町生まれ。東川小

旭中を経て、函館有斗高を卒業。(株)ダイカに入社しましたが、昭和44年東京にて医療機械メーカーに転職。北海道・東北での新規開拓に情熱を注いでおりましたが、平成8年調剤機器メーカーに移り、営業一筋で45年が過ぎました。読売新聞の案内欄で、東京東川会の開催を知り、同会に出席。そのご縁でこの度道南会に入会させていただきました。
 函館には、両親の墓参りで訪れるのみとなりました。今後とも道南会への参加を楽しみにしております。



安原 秀樹
 昭和25年名古屋生まれ。小学校入学時に一家で

函館に移住。東川小、旭中、西高を卒業後、横浜市に入庁。日産スタジアム建設事業やよこはま動物園の運営に携わった後、外郭団体で公園管理運営に従事。現在は年金生活。横浜の仕事は45年間と、函館での12年間より長かったのですが、函館は想い出や記憶に残る良い街です。この10月には、愛車とフェリーで津軽海峡を渡り、函館、札幌を巡り、従兄弟と旧交を温めました。



金田 葉子
 昭和25年、真昆布で有名な南茅部町尾札部で生

まれる。南茅部高校を卒業後、函館五稜郭病院の事務に勤務。3年後に横浜に移住し、耳鼻科の受付を20年。現在は歯科に勤務。10年前から趣味のフルートを始める。鎌倉フルートクラブに入会し、毎年11月に行われる鎌倉合奏祭に出ています。
 道南会へは、同郷の酒井哲美氏の紹介で友人の中島京子さんと二人で入会しました。横浜は戸塚に在住。中島さんとは道路一本隔てて住んでいます。これも何かのご縁ですね！



吉本 有佑
 昭和59年小樽市生まれ。小樽潮陵高校卒業後、

北海道教育大学函館校に入学。同大大学院(函館校)修了後、音楽教員として、尾札部中学校、恵山中学校、本通中学校で勤務。13年間函館で生活し、東京へ移住。大学在学時より、たくさんの方々のおかげで地域に根ざした演奏活動(ピアノ)ができ、平成26年度函館音楽協会奨励賞を受賞。現在も、お世話になった函館を中心に、道南の各地を毎月訪れ、様々な場所で演奏活動をしています。



松村 元義
 昭和25年帯広近郊で生まれ。その後旧南茅部町

で育ちました。函館工業高を卒業後、沖電気工業に入社し、東京勤務を皮切りに関東圏で勤務し、現在は甲府市に住んでおります。
 北海道には兄、姉、親戚のほとんどが住んでおり、毎年帰っています。友人の勧めで道南会に入りました。皆様との交流で様々な方とお知り合いになれたら思っております。甲府市のある山梨県は風光明媚な自然と果実、ワイン、和洋酒が大変美味しい所です。

北海道道南会のホームページ

<http://hokkaido-dounankai.com/>

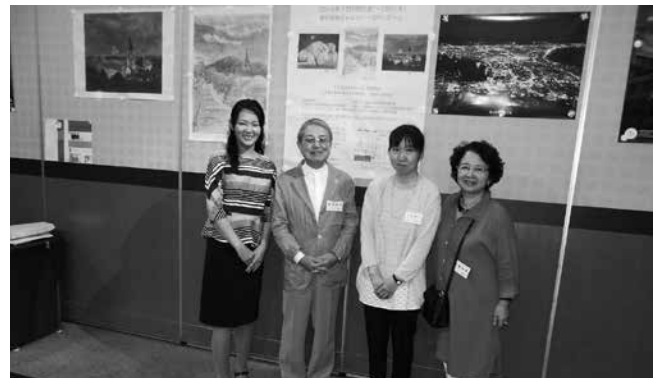
道南会では、ホームページを開設して、50年以上に及ぶ道南会の歴史や会則、入会のお勧め、新年総会・懇親会や夏季懇親会の開催案内、月例行事のご案内、機関誌「会報・道南」の一覧などを掲載して、会の情報を随時お知らせしています。ホームページについて、info@hokkaido-dounankai.com へ、ご意見、ご要望などをお寄せくださいますようお願いいたします。

平成28年度 夏季懇親会

今年の北海道道南会夏季懇親会は、9月3日(土) 正午より、東京・荒川区東日暮里のホテル ラングウッド・鳳凰の間で、来賓・会員・ゲスト107人が出席して行われました。

会は、島田瑞子副会長の司会で始められ、最初に葉袋泰会長が「今年の夏は、台風が北海道を直撃し、道央地区に大きな被害をもたらしたようだ。夏季懇親会では、新年総会と違い特別な行事はないので、今日は皆さん大いに楽しんでいただき

たい。なお、今年の1月から、会員の中島利夫さん、加藤信利さん、高橋祐司さん、前会長の川守田孝平さん、矢作勝幸さん、今井清さんの6人の方々が死去された。謹んでご冥福をお祈りします。ことに、川守田前会長には大変お世話になった。今後とも川守田さんのご意志を継いで道南会を盛り上げていきたい」と挨拶した。次いで、物故された6人の会員へ参加の皆さんで黙祷を捧げました。続いて、新入会員として参加



された11人の方々を紹介。皆さんには自己紹介として出身小学校などを述べていただいた。

そして、郷内繁顧問が「道南会の一層の発展とご参加の皆さんのご健勝を祈念して」と乾杯の音頭を取り、開宴しました。

会場内には、函館市と七飯町大沼の観光ポスターが多数貼られ雰囲気盛り上げ、各所からは懐かしい函館弁での会話が交わされていました。またバツグンラウンドミュージックとして、会員の嶋村悦子さんのお嬢さんの歌手・飛鳥とも美さんの歌「永遠(とわ)の春」が流されていました。

今年のアトラクションは、現



役の芸者さんの安保咲子さんが目度い「松づくし」を音楽に合わせて優雅に舞って、皆さんから大きな拍手を受けていました。

続いて、金春流能楽師のシテ方・柏崎真由子さんが、お酒の大好きな「狸々」という動物と健康長寿を願ったお目度い曲を美声で朗々と謡い上げて、盛んな拍手を受けていました。さらに、歌手の池田さなえさんは、持ち歌の「函館ステップ」と新曲「明日のわたし」を披露して大きな歓声を受けていました。さらにアンコールとして「函館夜景」を、安保咲子さんと一緒に踊りながら歌い上げて会場内を大いに盛り上げていただきました。



また、有志の方々が会場一杯に輪になって懐かしい「港おどり」の曲に合わせて踊り、改めてふるさと・函館を思い出していました。

そして、函館の応援歌として「青春時代」の替え歌「函館時代」を全員で合唱、一層盛り上げていました。また、川瀬俊吉幹事が音頭を取って、北海道道南会へのエールを送りました。最後に、三村寿雄副会長が、閉会の言葉と一本締めを行って、午後2時30分過ぎに次回の再会を約束して終了しました。この日のご参加の皆さんには、お土産としてサップロピール提供の「麦とポップ」が、そして函館市や大沼の観光パンフレットなどが配られました。



新入会員紹介

(一)内は出身小学校

◆伊藤昭憲(函館市高丘滝沢小)

島田瑞子副会長の紹介。

◆大畑徹夫(七飯町峠下小)

統薫常任幹事の紹介。

◆岡本信三(函館市東川小)

島田瑞子副会長の紹介。

◆金田葉子

(南茅部町・現函館市磨光小)

酒井哲美氏の紹介。

◆中島京子

(南茅部町・現函館市木直小)

酒井哲美氏の紹介。

◆道下佳拓(奥尻町奥尻小)

統薫常任幹事の紹介。

◆松村元義

(南茅部町・現函館市木直小)

酒井哲美氏の紹介。

◆三橋智行(函館市深掘小)

富岡信夫幹事の紹介。

◆安原秀樹(函館市東川小)

三村寿雄副会長の紹介。

◆吉岡孝行

(南茅部町・現函館市磨光小)

酒井哲美氏の紹介。

◆吉本有佑(函館教育大)

島田瑞子副会長の紹介。

平成28年度

夏季懇親会出席者

〔来賓〕

※サッポロビール(株)

営業本部法人営業部

シニアマネージャー

栗原 史

【参加者】青木幹則、朝倉敏夫、

浅田和幸、安保咲子、池田さな

え、石戸六男、泉龍夫、伊藤昭

憲、井上千春、今井雅子、岡本

信三、奥野政博、大畑徹夫、折

田信一、角田素子、笠川雅彦、

柏崎真由子、金子公彦、金田葉

子、川瀬俊吉、川守田礼子、菊



池紀邦、帰山武志、工藤正昭、
小坂鉄雄、郷内繁、小島幸子、
小助川昭一、小林智恵子、小林
寅雄、小森良彦、小山和彦、酒
井哲美、佐々木俊克、佐々木豊
子、佐々木直、佐藤昇、佐藤雅
英、沢株尚子、沢株正始、汐谷
進、柴崎貴子、柴田孝、島田瑞子、
嶋村悦子、新谷義克、神れい子、
菅原大作、須藤珠実、砂山和義、
高木清子、高橋厚子、竹澤秀昭、
谷口定己、田沼修二、千歳芳光、
統薫、富岡信夫、中川和彦、中
島京子、中山泰誇、長島康、納
代鉄也、榎木久澄、成田きよえ、
成田慶子、新山春一、沼崎貞良、
沼崎茂子、根来美和子、野口晴
雄、野戸崇治、花木瞳、濱光則、



計 報

二上達也さん

平成28年11月1日

死去 84歳

能味寿哉さん

平成28年11月5日

死去 94歳

謹んでご冥福をお祈りします。

比嘉裕子、檜森元、福崎正春、
福地史人、古井勝春、本間和吉、
松井文夫、松浦和彌、松田州平、
松田昇、松村茂、道下佳拓、三
橋智行、葉袋泰、南谷光一、三
村寿雄、向山慶宗則、森英爾、
森本貞子、森山耐介、柳下五百
子、安田康次、安原秀樹、山木
和子、山田克明、山手章、山本
久子、吉岡孝行、吉野俊郎、吉
本有佑、渡邊一郎、和田秀志
〔特別ゲスト〕沼田信之輔

道南会行事報告

☆真夏の暑気払いの会

今年の暑気払いの会は、7月23日(土)正午から港区東新橋の旧新橋停車場跡地のビヤダインニングライオン汐留店で会員とその家族22人が参加して行われました。この建物は、1872(明治5)年10月14日に開業した日本最初の鉄道ターミナル・新橋停車場の駅舎の外観を当時と同じ位置に、できるだけ忠実に再現したもので、内装とも昔を感じさせる落ち着いた雰囲気の会場でした。

最初に葉袋会長が、「一時猛烈に暑かったが、梅雨明け間近となった最近では涼しい日が続いてきた。美味しいビールと料理を楽しむ会にしたい」とあいさつ。早速ビールで乾杯し、開宴



しました。ウインナーソーセージやピザなどのイタリアのコース料理を肴に和気藹々の楽しい雰囲気の中で、夏休みの過ごし方や開業し立ての北海道新幹線での函館訪問のことなどを話していました。話題は尽きませんでした。午後2時30分過ぎに記念撮影をしていったん散会としました。

この後、建物の中に併設されている鉄道歴史展示室の「北海道新幹線開業記念展・海を航る―船・鉄道・新幹線―」を見学しました。

記念展では、1903(明治41)年から80年間、津軽海峡で活躍を続けた青函連絡船の歴史や当時の旅の様子などの展示のほか、40年近くに及ぶ年月と、延べ1400万人の人々の手によって完成した全長約54km以上に及ぶ海底トンネル・青函トンネルの難工事から開業を迎えるまで。さらに、青函トンネルを通り、新たに本州と北海道を結ぶルートになった北海道新幹線の開業までの歴史や新幹線と在来線が同じ区間を走行するための仕組み、開業に合わせてデビューしたH5系新幹線電車などが紹介されていて、函館生まれの我々にとって馴染み深い展示内容で皆さん楽しんでおられたようでした。

☆浅草ジャズフェスティバル

浅草おかみさん会主催の第30回ニューオリンズフェスティバル

ル公演が浅草公会堂で開催され、道南会では今年も8月24日(水)に30人が参加して、トーマス・フィッシャーとニューオリンズジャズオールスターズ、日本の外山喜雄とデキシ―セイソンの演奏を楽しみました。

☆「28年度夏季懇親会」

(別掲)

9月3日(土)午後0時開催
荒川区東日暮里
ホテルラングウツド

☆巣鴨とげぬき地蔵尊参拝と昼食会

10月21日(金)午前11時に、JR巣鴨駅改札口に集合。

徒歩で10分程の巣鴨地蔵通り商店街の中央部に鎮座する曹洞宗萬頂山高岩寺へ。高岩寺は、「とげぬき地蔵尊」という名で親しまれている名刹。江戸幕府の開府以前の慶長元年(1536年)に、現在の外神田2丁目が開創され、60年後に下谷屏風坂に移転。現在の巣鴨には明治24年(1891年)に移ってきた。ご本尊であり「とげ抜き地蔵」として靈験あらたかな延命地蔵尊(秘仏)は、多くの善男善女から信仰を集めている。また、境内の「洗い観音(聖観世音菩薩)」は、水をかけ、自分の悪いところを洗うと治るといふ信仰が生まれ、今は2代目の観音様を布で洗うようになっている。

観音を洗ったり、さらに通りの入り口から庚申塚まで、およそ800mある賑やかな地蔵通り商店街を散策していました。特に、開運の縁起物として有名な赤い下着を購入したり、塩大福や地蔵最中を買い求めていました。

12時20分過ぎに、蛇の目鮎に移動して、貸し切りの宴会場で、葉袋会長の挨拶と乾杯の音頭で、久しぶりの懇親会を開会しました。

皆さんは、ふるさとの思い出話しや近況などの会話で和やかな交流・懇親会となりました。ことに、3月26日に開業した北海道新幹線を利用してのふるさと旅行などの話で盛り上がっていました。午後2時15分過ぎ、ほろ酔い気分と満腹になったところで、集合記念写真を撮り自由解散となりました。笑顔の絶えない楽しい一日でした。参加者21人。



編集後記

◎道南会では、ホームページを開設して、情報発信をしておりますが、入会希望者などからのお問い合わせが時々あります。その一方で、函館や札幌などのマンシオン、それも投資対象として建てられたものを宣伝して欲しいとのお問い合わせが来ることも多くなっています。

◎バブル全盛の頃、函館山の中腹にマンシオンが林立したことがありますが。その大部分は、夜景を独り占めできることが大きな売りで、住むことは勿論、投資物件として売りに出されていました。しかし、山の中腹は坂道で季節の良いときには全く問題がありませんが、冬の坂道は厳しく、買ったのは良いけれど住むことが難しく、灯りのつかない建物が増えていました。

◎今年の長期予報では、暖冬傾向と言われていましたが、北海道は思いの外、雪が多いようです。

◎北海道を離れて長くなった我々は雪道の歩き方を忘れてしまっているようです。東京などで雪が少しでも降ると大勢の怪我人が出ており、注意しなければと思っています。

会報「道南」

29年・新年号・通巻65号

発行 平成29年1月1日
発行所 北海道道南会事務局
茨城県取手市西

1・6・C・907
葉袋 氣付

印刷所 富士製版印刷(株)
世田谷区下馬4・17・17